

## 地域支援の臨床実践と実務教育を架橋した新たな「実践型教育プログラム」の開発：平成22年度報告書

著者	土岐 篤史, 上原 美穂, 川口 智美
ファイル(説明)	[奥付] 資料集 おわりに 第4章 第3章 第2章 第1章 はじめに 巻頭言 目次 [表紙・標題紙]
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10232/17377">http://hdl.handle.net/10232/17377</a>

# 第1章 事業の概要

## 第1節 事業全体の概要

### 1. 趣旨

鹿児島大学大学院臨床心理学研究科は、高度専門職業人としての臨床心理士を養成する専門職大学院の中でも、我が国初の独立研究科として平成19年4月に設立された。その後、平成20年度から平成21年度にかけて、九州大学大学院と共同して専門職GP「臨床心理実習における客観的評価方法の構築」に取り組み、客観性・公平性の高い評価基準に基づく臨床心理実習の評価方法を構築してきた。そうした客観的な評価方法の構築は、より実効性のある臨床心理実践教育を展開するための基準となった。

そして今回、さらなる臨床心理実践教育の充実を目指し、平成22年度から平成24年度にかけて、特別教育研究経費プロジェクト（文部科学省）「地域支援の臨床実践と実務教育を架橋した新たな『実践型教育プログラム』の開発」に着手することとなった。

本事業では、専任教員および事業スタッフが様々な地域に出向き、これまでにないデリバリー方式による地域支援のためのコミュニティアプローチを行う中で、専門職大学院としての地域貢献の在り方を模索すると同時に、地域において即戦力として実践的活動が行える臨床心理士の養成、輩出のための教育プログラムの開発を行う。

### 2. プロジェクト全体の概要

#### (1) 目的・目標

本研究科においては、ティーチング・クリニックである付設の心理臨床相談室における学内実習を柱とし、教育・福祉・医療領域における2年間で3箇所以上の学外実習を含む高度な教育課程を編成してきた。学内実習ならびに学外実習においては、原則として実習施設内に勤務する臨床心理士が実習指導にあたり、相談者が自発的に相談機関を訪れる来談形式による心理面接を中心とした臨床心理教育が行われてきた。

しかし、近年の心理臨床において、来談形式だけではなく、心理臨床家が実際に地域に出向き、心理臨床的支援を行う形式が要請される。本教育課程においても、この新しいニーズに対応すべく、臨床心理士が普段は関与しない機関や地域に出向き、個別あるいは集団支援、地域支援、および危機介入支援を行う際に求められる実践的臨床技能を育成する臨床心理教育のあり方を模索することになった。実践的臨床技能とは、①個人、集団を見立て、②個人、集団への援助方針を立て、③キーパーソンを特定し、④他職種、

組織との連携，を行える能力のことである。

本事業の目的は，以上の技能を有する臨床心理士育成のために，来談形式を超えて，実際に心理臨床家が地域に出向き，心理臨床的支援を行う，いわゆるデリバリー方式による地域支援と実践的教育との架橋である。

そこで本事業は，地域支援の臨床実践と実務教育を架橋した「実践型教育プログラム」の開発を目標とする。具体的には，鹿児島県内における対象地域を選定，教員が対象地域に出向き心理臨床実践を行い，その場に大学院生を陪席させるなどして，地域文化を踏まえた実践的臨床技能を修得させる実務教育を行い，臨床心理教育の新たな教育課程を検討していく。

## **(2) 実施体制**

デリバリー方式による「実践型教育プログラム」の開発にあたり，臨床心理学研究科の専任教員9名がメンバーとなり，プロジェクトリーダーとして実務家教員1名（土岐篤史准教授），事業スタッフ3名（上原美穂特任助教，川口智美非常勤臨床心理士，富宿小百合事務補佐員）を配して，本事業の実施体制を整えた。

既設の心理臨床相談室を基盤として，新たに「地域支援プロジェクト支援室」を立ち上げた。プロジェクト支援室では，事業スタッフが中心となり，ホームページによる広報活動，地域住民への啓発講演，専門家対象のコンサルテーションなど，地域との連携・調整・事務作業を行っている。

## 第2節 平成22年度の概要

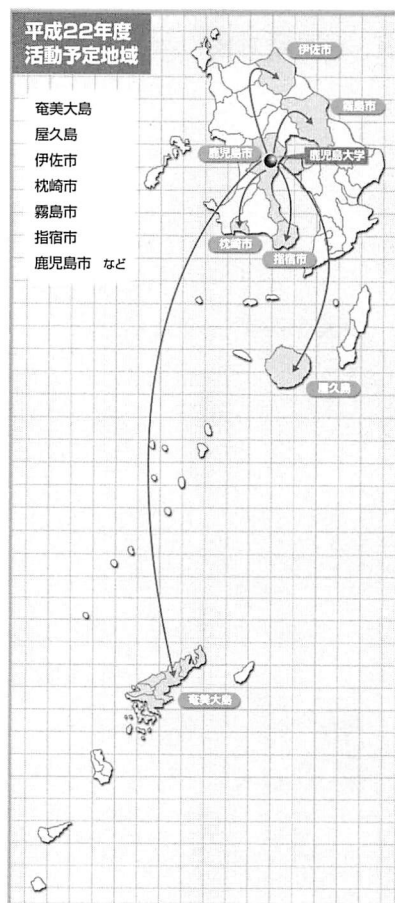
本事業の初年度となる平成22年度は、デリバリー方式による講演会開催と地域支援に関する情報収集が主な取組となった。

デリバリー方式による講演会は、計画段階では以下の地図に示した地域を予定していたが、各地域と意見交換を行った結果、最終的には、鹿児島県内6箇所（伊佐市、奄美大島、霧島市、種子島、枕崎市、鹿児島市）で、対人援助の専門家の方々を対象に実施することができた。対象となる地域の専門家の携わっている領域は、各地域によって異なり、医療、福祉、教育、行政と多岐に及んだ。

今回、講演会開催にあたっては、地域との連携を深め、地域の心理臨床的支援への潜在的ニーズを把握することに重点をおいた。そのため、講演会の企画、立案の際は、事業スタッフが地域に出向き、地域の専門家との意見交換を重ねた。

また、講演会開催という地域支援の実践と同時に、地域支援に関する情報収集を行った。国内では、地域支援の先進的な取組を行っている追手門学院大学、神戸女学院大学、および臨床心理学関連学会の視察を行った。さらに海外視察では、スウェーデンのストックホルム県 BUP, Karolinska Institutet, Stockholm University に出かけた。

以上のように、本年度は、次年度の基盤となる活動が中心となった。



### 第3節 今年度の編成

平成22年度の地域支援プロジェクトは、統括責任者の安部恒久研究科長の下、以下の表1のように編成された。

表1. 平成22年度 組織編成

統括		安部 恒久
		松木 繁
プロジェクトリーダー	プロジェクトの企画進行など	土岐 篤史
プロジェクトコ・リーダー		服巻 豊
プロジェクト支援室	プロジェクトの実施準備など	上原 美穂
		川口 智美
		富宿 小百合
講演会等の 諸活動	奄美大島	落合 美貴子
	種子島	中原 睦美
	伊 佐	土岐 篤史
	枕 崎	金坂 弥起
	指 宿	松木 繁
	霧 島	服巻 豊
	鹿児島市①	平川 忠敏
	鹿児島市②	山中 寛
	コーディネーター	上原 美穂
海外視察・招聘	海外視察・招聘の企画と準備	土岐 篤史
		服巻 豊
広報・サイト管理	本事業の広報に関すること 公式サイト作成と管理	上原 美穂
		川口 智美
		富宿 小百合
報告書編集	報告書の編集	土岐 篤史
		上原 美穂
		川口 智美